

DEBUT 首長

千葉県木更津市長 渡辺 芳邦氏



わたなべ・よしくに 1964年木更津市生まれ。87年日大理工卒。会社員などを経て2005年に千葉県議会議員となり、9年務めた。14年3月の木更津市長選に無所属新人で出馬し当選。趣味は野球、ジョギングなどのスポーツ。49歳。

道路と商業施設、波及効果狙う 街づくりは市民で、行政は支援

千葉県木更津市 房総半島の中部に位置し、東京湾に面する。京葉工業地域の一角を占め、港と商業を中心に発展してきた。人口は13万2600人。

——東京湾アクアラインの通行料下げや三井アウトレットパークの開業で木更津には追い風が吹いている。人口が増え、今春には33年ぶりに小学校も開校した。この勢いをどう生かす。

週末になると、アウトレットに来た客でアクアラインが渋滞し、夜まで帰れないことがある。そうした人の流れは周辺の飲食店や体験農業施設にも恩恵をもたらしている。アウトレットに来た客がさらに地域の中に入り込むようにしたい。

市も商工会議所や観光協会と協力して「週末木更津計画」を企画し、夜に飲食店に寄ると割引になるヨル得キャンペーンなどを展開している。常設の屋台で食の街づくりを進める動きもあり、行政もこうした活動を応援していく。今後はアウトレットのある金田地区のほか、道の

駅の構想がある馬來田地区、秋にイオンモールができる港周辺の3地域を経済・交流の拠点として整備したい。

課題はJR木更津駅周辺の活性化だ。2000年のそごう撤退から駅前力がなくなった。便利なものがなくなり、若者が集まる場所もない。住民も山の手の環境のいい場所に移っている。昼の働き手を増やすことが必要だ。駅前に行政機能を持つていくとか、行政が関係するコミュニティ空間を作るとか、何ができるか検討している。

——商業施設に比べ、製造業の集積は薄い。産業育成にはどんな方針で取り組むか。

先端企業の工業団地「かずさアカデミアパーク」は昨年も4件の進出が決まり、だいぶ増えてきた。木更津には首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と館山自動車道の結節点があり、圏央道が成田までつながれば物流の拠点となる可能性もある。

ただ、工場立地に適した土地はそれほどない。具体化はしていないが、君津、富津、袖ヶ浦の3市との合併を視野に入れな

がら役割分担することも考えている。木更津は住んでもらう場所となり、ここから周辺の工場群に通ってもらう。そんな役割でもいいのではないかと。

——街づくりは市民が主体であり、行政はその応援団との方針を打ち出している。

木更津は1997年のアクアライン開業後に地価下落率が全国1位になり、商店街はシャッター通りになった。何をやるにもお金がなく、草刈りもできなかったほどだ。私も県議時代から取り組んできたが、ここでは市民が街づくりを担う意識が定着している。行政はその活動をサポートする役割を強めたい。

例えば子供会や老人会の活動を支援すれば地域のコミュニティを再生でき、ネットワークが広がる。13万人の市民の力があれば、行政の目が届かないところまで街づくりの動きが広がるはずだ。

（聞き手は

千葉支局長 清水 省吾）